

別府大学短期大学部における人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的

本学の建学の精神である「真理はわれらを自由にする」にもとづき、人間教育を基礎として、人格の陶冶に努めるとともに、実際に即した専門的教育を施しもって、国家・社会の発展に寄与することができる有能な人材を育成することを目的とする。

- 一 創造豊かな優れた人間性の育成に努める
- 二 専門知識と能力を備えた職業人として社会の発展を担う人材を育成する
- 三 地域社会ならびに国際社会で活躍できる能力をそなえた人材を育成する
- 四 地域にある短期大学として特色のある教育研究を推進する

また、別府大学短期大学部学則第3条第2項及び第51条第2項の規定に基づき、学科及び専攻科の人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的を次のとおり定める。

1. 食物栄養科

食物と栄養・健康について教育と研究を総合的に行い、現在の多様化した食生活に対応できる専門知識と幅広い教養を備えて地域の健康教育や栄養教育に貢献できるリーダーシップを身に付けた栄養士を養成するとともに次のような人材を育成する。また、地域にある栄養士養成施設として特色のある研究活動を推進する。

- (1) 健康に関する基礎化学、栄養学、食環境に関する専門科目を学修し、さらに食品加工・調理学の学修を通して加工調理技術の「技」をともなう食のスペシャリストを養成する。
- (2) 食と健康に関する専門知識を持ち、健康増進のための実践的な栄養教育のできる能力を備えた人材を育成する。
- (3) 食と健康に関する専門知識を持ち、日本の食文化、地域の食文化を踏まえた食生活の継承者としての能力を備えた人材を育成する。
- (4) 食を通じて児童生徒が自らの心と体の健康管理と豊かな人間形成ができるように支援することのできる人材を育成する。
- (5) 学校給食などの集団給食施設における給食経営管理能力を備えた人材を育成する。

2. 初等教育科

教育・保育に関する専門科目および技術の修得を通して、理論に基づいた実践力の高い人材、および、教育・保育に対する情熱に溢れ、専門性に優れた豊かな人間性を備えた人材の養成を目的としている。

- (1) 音楽表現・造形表現・身体表現を通して感性を育むと同時に自己表現技術を学び、幼児・児童への共感と双方向的コミュニケーション能力を持った人材を育成する。
- (2) 野外体験やレクリエーションなどの体験型学習を通して実践的指導力・責任感・使命感など教育者として必要な資質を持った人材を育成する。

- (3) 教員と共に諸活動に参加し、地域社会への視野を広げ、地域や家庭との円滑な連携ができるよう、多様な人間関係に対応できる人材を育成する。
- (4) 社会福祉や心理学系科目の学習を通して、実践的で論理的な問題解決能力を有するなど教育福祉に必要な資質を持った人材を育成する。
- (5) 講演会をはじめ文化事業や海外研修を通して、幅広い教養と国際感覚を身に付け、教育研究活動を協働的に展開していくことのできる人材を育成する。

3. 域総合科学科

時代の流れや社会の変化に主体的に対応するとともに、自ら将来の課題について探求し、その課題に対して広い視野から総合的に考え、解決する能力（生きる力）を備えた人材養成を次のような点から行う。

さまざまな系列の多様な科目を履修することで、幅広い教養と専門的知識・技能を持った人材を養成する

- (1) 地域と連携して行う「地域参加実習」に全員を必修として参加させ、地域について理解を深め、地域を愛する人材を養成する。さらに、企画力、運営力、問題解決能力、コミュニケーション力など地域社会に貢献するために必要な実践的能力を身につけた人材を養成する。
- (2) さまざまな企業と連携しておこなう「インターンシップ」で貴重な就業体験をすることで、自分の適性や社会で求められる能力、資質などについて理解を深め、勉学意欲を高め、しっかりとした職業意識を持ち、地域社会の多様な要望に応える人材を養成する。
- (3) 各種免許や資格取得を目指した講座を充実することで、地域社会や企業が必要とするさまざまな資格を取得し、地域社会で即戦力として活躍できる実務的能力を身につけた人材を養成する。
- (4) 学生一人ひとりにあったきめ細かな進路指導を行うことで、自分の希望する進路実現に向けて前向きに取り組む人材を養成する。

4. 保育科

保育に関する専門科目や技術科目によって保育者としての専門的素養を身につけ、合わせて、自然豊かな環境の中で豊かな感性を育み、さまざまな人間関係を通してコミュニケーション能力を高めることが保育科のねらいである。

この中で、学生たちが、人格の基礎が形成される乳幼児期の重要性を自覚し、共感能力を持った豊かな人間性と実践力に富む保育者となるように教育していくことを目的としている。

- (1) 向上心を持ち、課題を自ら発見し、解決しようとする積極性のある人材を育成する。
- (2) 子どもへの深い理解と愛情を持ち、豊かな感性と表現力、使命感、責任感を備えた人材を育成する。
- (3) 深い専門的知識とすぐれた保育技術、多様な体験を基盤にした実践的指導力を持った人材を育成する。

- (4) 多様性に富む子どもや保護者等との信頼関係を構築できる人材を育成する。
- (5) 旺盛な知的探求心を持ち、得意分野の素地を形成し、将来に向けての夢や希望を膨らませる人材を育成する。
- (6) 社会の多様なニーズに応える特色ある教育研究活動を推進することの出来る人材を育成する。

5. 専攻科 福祉専攻

介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養と技術を備え、総合的な判断力と豊かな人間性を持ち合わせた質の高い介護福祉士の養成を目指して、次のような人材を育成する。

- (1) 介護サービスを提供する対象や場に応じて、利用者の持つ様々な介護ニーズに対応できるように介護に関する専門知識を持ち、根拠を持った介護を提供できる人材を育成する。
- (2) 他者の立場にたち、尊厳を支えるケアの実践者となれるよう課題研究についての基盤や態度を身につけた人材を育成する。

6. 専攻科 初等教育専攻

初等教育に関する専門科目および技術の修得を通して、理論に基づいたより実践力の高い人材養成を目指している。小学校及び幼稚園教諭の一種免許状取得を目ざし、資質の高い教員を養成するために以下の4点を重視した人材の育成を目標としている。

- (1) 幼児の指導法・小学校の教科指導法に関する科目を通して、幼児・児童の教育方法を身につけた人材を育成する。
- (2) カウンセリングをはじめ心理系科目の充実を図り、幼児・児童期の心について論理的、科学的に学ぶことにより、子どもの心に向き合える人材を育成する。
- (3) 美術や音楽を通して広く芸術を愛する心を育み、人間としての豊かな資質と情操を身に付けた人材を育成する。
- (4) 現場の教員に直接学ぶ機会を定期的に取り入れ、体験を通じた実践的指導力と総合的なコミュニケーション力を備えた人材を育成する。